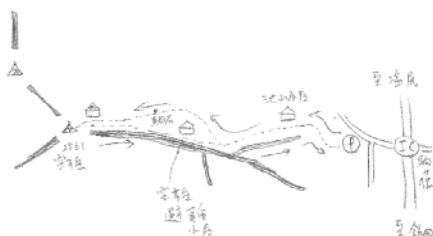


空木岳

雪山の下見

2022 年 11 月 19 日(土) L: 齋藤

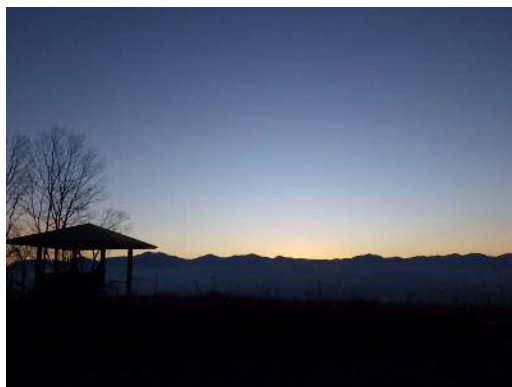


11 月 19 日(土)晴れ

積雪期に 2 回挑戦している空木岳。1 回目は空木平分岐で時間切れ敗退、もう 1 回は雪・ソロ・テント無・2863m・長距離という条件に恐れをなして気持ちが乗らず、最初の樹林帯で引き返し。

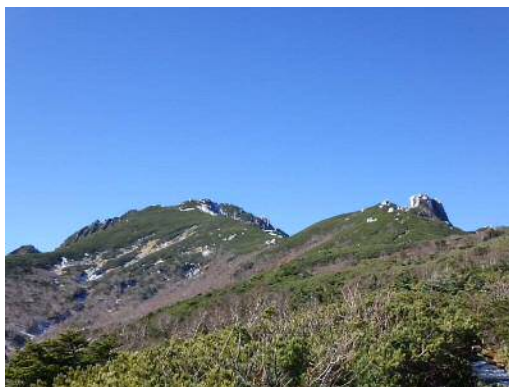
そもそも無雪期の登頂さえもしていないんだから、自信よりも不安が勝るのは当然であろう。じゃあいつかの登頂のために下見をしておくべきだなと計画した。

5:30 にスキー場を出発し、林道終点に到着する約 1 時間後には空が明るくなってきた。



天気の良い 1 日になりそう

登山道は単調かつ明瞭で、それでいて嫌になるくらい長い。だから登る人が少ないのかなあ、とか思っているうちに鎖場を越えて、1 回目の冬季山行で怖い思いをしたトラバースをあっさりと通り抜けて空木平分岐まで到着した。出発から 5 時間だった。以前、元会員の秋山氏と来た時はここまで 7 時間かかりタイムアップとなったので、以降は初見となる。今までの樹林歩きから一転、見晴らしの良い山歩きに変わった。



山頂ロックオン！

駒石を經由して山頂を目指す。



所々、うっすらと雪が積もっています



登頂っ

今回は下見山行ということで、戻って駒峰ヒュッテを覗く。

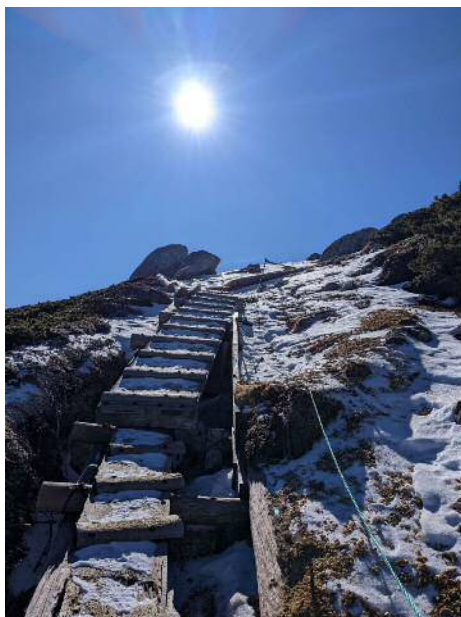


谷の下方に空木平避難小屋を確認



冬季は玄関入口(?)のみを解放するらしい

次に谷側に降りて空木平避難小屋を目指す。石がゴロゴロしていて歩きにくく、この辺で右ひざに違和感を感じ始めた。



滑りそう



雪が積もれば歩きやすいでしょう



イグルーや雪洞を作るならこの辺とか



この辺？



小屋着。室内は広々でした

このあたりは谷になっているのでそんなに雪が積もる気がする。冬季に訪れるのであれば、小屋で寝るのも良いが、体力に余裕があって雪も豊富だったらイグルーや雪洞を作ってみたいと思う。

ただ小屋近辺で1泊したとして、翌日にこの谷を直登していくのは雪崩の危険がありそうなので、面倒でも引き返して駒石経由で山頂を目指した方がよさそうだ。逆に風が強いだろうけど。

次の下見は冬季に怖いトラバース。山頂からいうと鎖場の手前になる。連続して4か所(?)ほどある。



このあたり

冬季は高巻いて迂回するらしいがどのみちロープが必要となるらしい。以前、秋山氏と行った際は、彼が恐れることもなくストックで渡って行ったけれど、それはパーティであったからでこそ。ソロで行くのであれば、事故のリスクをより可能な限り最小に抑えなければならない。

ここでは高巻きするよりも夏道をロープ使って自分自身をビレイしながら渡る

のが効率的かなと考えた。もしも雪崩が起きたり、滑落することを考慮すると支点は雪崩の流路から外すことが必須条件。歩幅などで曖昧な長さを測るのではなく、実際にロープを張って実測値から必要長さを計算した。



これぞ下見って感じ

測ってみるといつも携行している 20m では不足、積雪により GL(グランドライン)が上昇すること等を考慮すると、プラス 10m ほど必要かなと思われる。雪山での寒さや緊張に起因したひとつひとつの動作の遅れや確認不足などのヒューマンエラーが必ずあるものと想定すると、現地でスリング簡易ハーネスを作るよりも、荷物は増えるが装備として持参したほうがよさそうだ。何よりも安全。

下見を終えて、駐車場を目指す。途中で痛めた右ひざ。ひざが痛くなるのは人生で初めてであったが、このままでは駐車場までもたないかもしれない。よってストックを使って荷重分散をすることにした。

いつまでも若い気ではいるけれど、体は

そうでもないな、と感じる下山でもあった。

ゴミ拾いは今回も行っているが、人気が無い山なのか、山を愛する登山者が多いのか、ほとんど落ちていなかった。自分の出したゴミにプラスして多少のプラスチックを回収しただけで、ちょっとだけ重量を増して駐車場に戻った。

初体験の右ひざの痛みは、翌日まで違和感があったが 2 日目以降は全く気にもならなかった。筋肉痛は 4 日間を経過した今でもまだ残っている。

<タイム>

駒ヶ根高原スキー場 P(5:34)-林道終点登山口 (6:30)-空木平分岐 (10:10)-駒石 (10:34)-空木岳 (11:27)-空木平避難小屋 (12:22)-空木平分岐 (12:53)-駒ヶ根高原スキー場 P(16:38)

(齋藤 記)